

令和6年度 事業活動報告

コロナウイルスもインフルエンザと同等の5類に移行され2年が経過し、感染対応に振り回され続けた日常が、少しずつ戻りつつあるように感じます。

このような状況の中、前年度に掲げた目標を達成すべく取り組んでまいりましたが、特養も短期入所生活介護事業も大幅な減収となってしまいました。今後は減収の原因を精査し、安定した経営が持続できる様、定期的に目標の進捗状況を確認しながら業務に当たらなければならないと考えます。利用者の高齢化及び重度化は避ける事の出来ない事実であり、入院が多く発生することも想定の範囲内と考え、その状況の中でどのような対策を講じることにより減収を防ぎ、増収に繋げるかを再度検討していく必要があります。通所介護事業については送迎のルートも再考し、日々のサービス内容を工夫し、リハビリ・レクリエーションの充実を図り、利用者様の健康維持・生きがいづくりを皆で考え、その結果前年度の稼働を超えることが出来ました。介護事業全般に関しては、それぞれの事業所に於いて加算の算定要件や人員配置基準を再度見直し、増収に繋げることは出来ないのか、利用者の生活の質の向上に繋がられないのかを検討しなければならないと考えます。

児童福祉事業におきましては、少子化の厳しい状況の中ではありますが、今後は認定こども園として地域との連携をこれまで以上に重要視し、地域の方々が少しでも園に足を運びやすい環境を整備しているところです。稼働率は微増となっております。今後もインスタグラム等で魅力的な活動内容を地域に発信し、稼働を上げていきたいと考えます。

職員の確保については、末吉まごころ園Ⅱと短期入所未吉まごころ園の閉鎖に伴い、介護保険事業所に関しては充足したと考えております。児童福祉事業については認定こども園となり利用園児の増加に伴い、整備していかなければなりません。

特養とグループホームは眠りスキャンを導入することにより、24時間交代で働く職員の負担軽減と利用者の健康維持・生活の質の向上に取り組み、今後は生産性向上推進体制加算を取得し、収益を上げていくことを検討していかなければなりません。

職員の資質向上については、継続して全職員に法人理念を深く理解していただき、法人の求める人材像や目指すべき方向性を明確にします。職員ひとり一人の自主性を尊重し、やりがい・働き甲斐を感じられる職場環境を構築していかなければなりません。

今後も地域の社会資源としてのボランティアや実習生を積極的に受け入れ、地元高校や専門学校へのアプローチを行い、魅力的なSNS等を定期的に発信することにより法人の認知度をさらに高めていく必要があると考えます。

私たち社会福祉法人松山やっちく会が、この地域になくてはならない存在であり続けるために、これまで以上に公益的な取り組みの実施、地域に根差した地道な取り組みや活動が必要になってくる

と思われます。今後もやっちく会の一員としての自覚を強く持ち、多様化するニーズに柔軟に対応し、常に利用者目線に立ったサービスが行えるよう研鑽を重ねていく必要があります。

利用者様に生きがいを持って生活していただけるよう支援していくことがやっちく会に与えられた使命と考え、地域福祉推進の中核団体であることを強く自覚し、職員一丸となって事業運営に邁進していきたいと考えます。